

# 牧野組合の現状と望まれる支援策

阿蘇の人々は集落ごとに定められた入会地と呼ばれる草原を利用してきたが、それぞれに牧野組合をつくり、牧柵の整備や野焼きなどの維持管理作業を行っている。近年、産業環境や地域社会の変化によって、畜産放牧のみによる草原の維持管理は困難になりつつあり、行政による助成措置などへの要請が高まっている。

国立公園における草地景観の保全、希少植物保護の観点からみて特に重要と考えられる草原(\*)を抜き出し、関係する牧野組合に対してアンケートを実施したところ、牧野利用の現状と今後の考え方には組合によってかなりの差があることがわかった。今後はそれぞれの条件に応じた支援策が必要であると考えられる。

※注記 ①北外輪山の主要景観ポイントから見える内輪山の一連の草地（ただしゴルフ場は除く）  
②内輪山から見える北外輪山の一連の草地  
③主要道路沿線の草地  
④希少植物生育地



アンケートを行った62の組合の中には野焼きや放牧の維持が困難になっているところもある。全体では、「畜産業への支援」や「野焼き・輪地切りへの助成」を望む組合が多い(平成10年12月調査)。

## TYPE 3

放牧継続は難しいが、野焼きは問題なく継続できる組合

畜産農家は減っているものの、集落行事としての野焼きが継続している組合と思われる。

畜産業継続への助成とともに、野焼きの体制維持のための要請があれば、ボランティアを派遣するなどの支援が必要である。

草原保全の困難さや農業の役割に対する都市住民の理解促進を求める意見も多く、野焼きや輪地切りの体験・交流会を開くことも考えられる。

## TYPE 1

放牧も野焼きも問題なく継続できる組合

サポートの緊急度は低いといえるが、畜産への意欲が高いことから、あか牛の産直販売などへの支援、収益性向上のための技術的支援などが考えられる。

また、草原維持の困難さや農業の役割に対する都市住民の理解促進を求める意見も多く、野焼きや輪地切りの体験会など交流イベントを絡めた畜産振興策が必要である。

## TYPE 2

放牧は良好な状態で継続できるが、野焼きの継続が困難な組合

畜産の意欲はあるものの、人手不足等から野焼きが困難になっていると考えられる。特に輪地切りに対する支援策への要望が高い。

防火帯作業道等の基盤整備や輪地切り作業の機械化を進めるための支援策、ボランティア派遣などが必要である。

## TYPE 4

放牧・野焼きとも維持が困難な組合

手がつけられないまま草原が放置される事態に至る可能性があり、支援の緊急度が高い。

維持作業に危険を伴うことも考えられる。

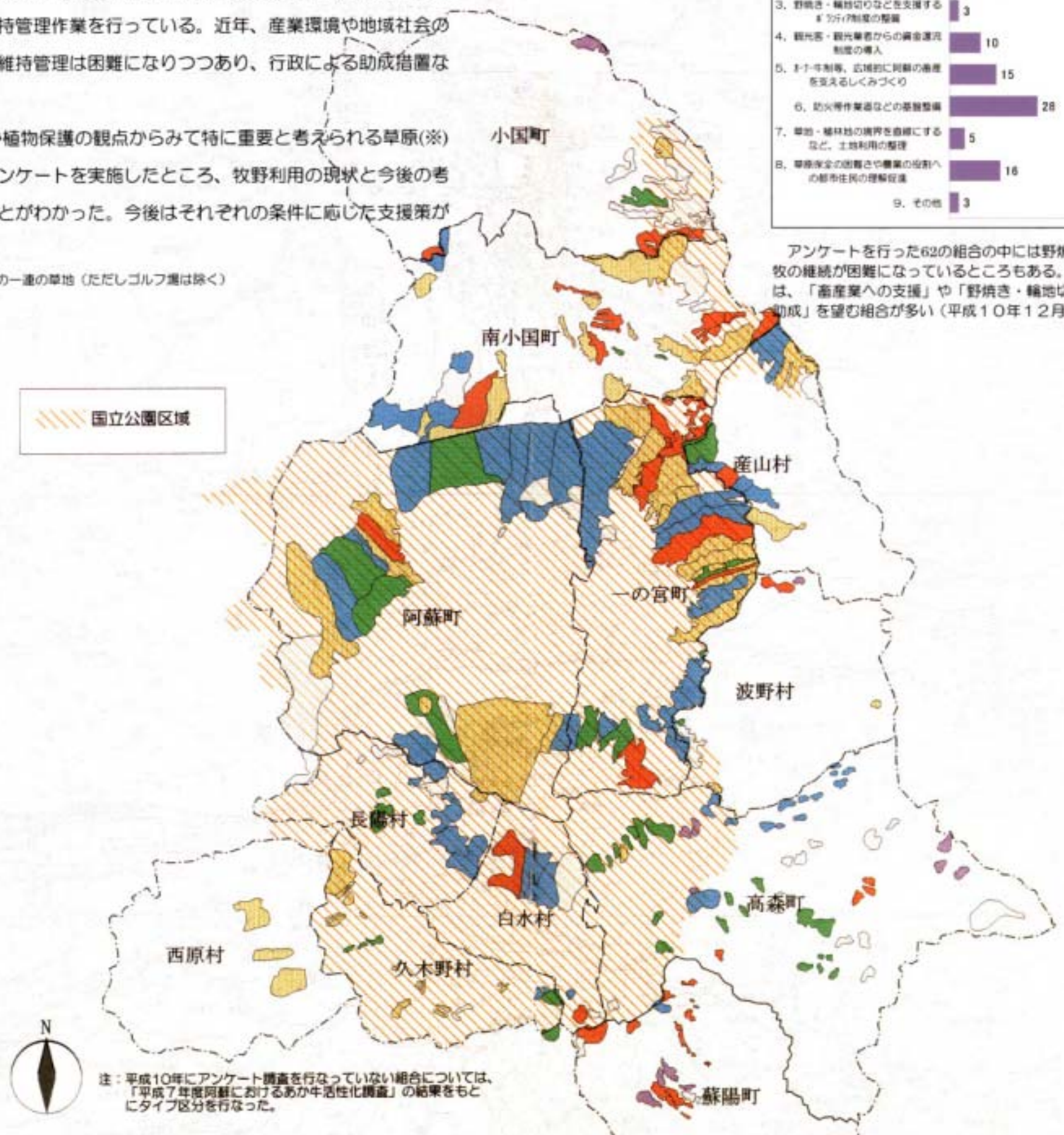
維持作業を継続するための支援を行う他、特に重要な地域の買い取りや維持管理業務の代行委託などについても検討する必要がある。

## TYPE 5

放牧は継続するが、野焼きは行っていない組合

放牧頭数が放牧地面積に対して非常に多く、密な状態で放牧が行われている。当面は放牧により草原は維持されると考えられる。

TYPE 1と同様に畜産の収益性向上のための助成が必要である。



注：平成10年にアンケート調査を行っていない組合については、「平成7年度阿蘇におけるあか牛活性化調査」の結果をもとにタイプ区分を行った。

：タイプ不明